

第 56 回 関西歯科麻酔研究会

大会長 丹羽 均 (大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学講座)

日時 令和5年7月1日(土) 午後1時から

場所 大阪大学歯学部 F棟 5F 弓倉記念ホール

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8

年会費 ¥ 3,000

会長 丹羽 均 (大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学講座)

- 発表形式等
- 1) 一般講演は発表時間7分、質疑応答3分です。
 - 2) 液晶プロジェクター(1面)とコンピュータ(Windows 10)、プレゼンテーション用ソフトはPower Point 2019をご用意いたします。USBメモリーにデータを記録してお持ちいただくか、コンピュータをご持参ください。枚数制限はありません。
 - 3) 変換ケーブルが必要な機種(Machintosh等)をご使用の場合は変換ケーブルをご持参ください。
 - 4) 発表スライドの確認は研究会開始前と一般講演IとIIの間に行っていただきますので、余裕をもってご来場ください。
 - 5) 発表スライドには利益相反状態を表示の必要があります。 昨年の歯科麻酔学会を参考に作製してください。
 - 6) 400字の後抄録を発表日翌日までに、必ず電子メールでご送付ください。
後抄録送先 handai.shikamasui@gmail.com

大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学講座 工藤 千穂 宛

- ※ 歯科麻酔認定医、専門医の先生は本研究会への参加、発表で、認定医、専門医の更新単位が得られません。受付にお申し出ください。
単位数に関しましては旧制度と新制度で異なりますので、各自でご確認ください。
- ※ 日本歯科麻酔学会会員カード(会員番号とQRコードが記載されているカード)を当日ご持参ください。 そのカードで登録を行う予定です。
- ※ 日本歯科医師会の生涯研修にも認定されています。日本歯科医師会会員の先生は、研修カードをお持ちください。ご不明な点がございましたら、日本歯科医師会にご確認願います。
- ※ クールビズでご来場ください。
- ※ 会場内は飲食厳禁となっております。

プログラム

1. (13:00 ~13:05) 会長挨拶

2. (13:05 ~13:15) 会員総会

3. (13:15 ~13:35) 一般講演 I

座長 大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学講座 横江 千寿子 先生

1) 咽頭弁形成術後患者において経鼻挿管経路を限定された1症例

○百田 裕加, 内田 琢也, 三谷 早希, 平 葉月, 西村 茉里, 柳瀬 敏子, 眞鍋 庸三,
百田 義弘

大阪歯科大学 歯科麻酔学講座

2) 歯科治療後に血管迷走神経反射を発症した2例を経験して

○釜田 隆

釜田歯科医院

☆☆☆☆☆☆

休憩 (13:35~13:50)

☆☆☆☆☆☆

4. (13:50~14:10) 一般講演 II

座長 大阪歯科大学 歯科麻酔学講座 三谷 早希 先生

3) 全身麻酔術前診察でCK高値を認めた乳児の全身麻酔経験

○岡橋 玲奈, 高津 芙美, 横江 千寿子, 丹羽 均

大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学講座

4) 先天性心疾患合併患者の口腔外科手術における麻酔関連有害事象発生率とリスク因子の検討

○林 正祐^{1,2)}, 丹羽 均²⁾, 橘 一也¹⁾

1) 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 麻酔科

2) 大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学講座

☆☆☆☆☆☆

休憩 (14:10~14:25)

☆☆☆☆☆☆

5. (14:25～15:45) シンポジウム 「周術期管理における歯科麻酔医の関与」
司会 大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学講座 丹羽 均 先生
- 1) 「がん専門病院での歯科医師の役割-口腔機能管理の実際について-」
地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 歯科 石橋 美樹 先生
- 2) 「歯科麻酔科による周術期口腔ケア –当院における取り組み–」
洛和会音羽病院 歯科麻酔科 中尾 晶子 先生
- 3) 「市民病院と隣接する口腔保健センターとの医歯連携および周術期口腔機能管理」
明石市立あかしユニバーサル歯科診療所 加藤 裕彦 先生
- 4) 総合討論

「がん専門病院での歯科医師の役割-口腔機能管理の実際について-

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 歯科 石橋 美樹 先生

2012年に周術期口腔機能管理が保険収載されてから11年が経過した。口腔管理をがんの支持療法として行うことで、合併症の予防や症状の改善、さらに患者のQOLの向上にも寄与できることが明らかになるにつれ、がん治療における歯科医師の役割の重要性は国内で認知されていると言える。一方で、周術期口腔機能管理の算定件数は、ほとんどが病院歯科で、診療所での算定件数は少ないのが現状である。

当センターは、2017年に歯科が常設され、多くのがん患者への歯科介入を行ってきた。受診患者数は年々増加しており、院内からはメディカルスタッフを中心に、全患者の受け入れを要望する声も高い。歯科受診患者の紹介目的のほとんどが、がん治療開始前の口腔スクリーニング依頼であるが、治療開始後に口腔有害事象が重症化してから紹介されるケースも認められる。中には、口腔有害事象が原因でがん治療を中断、中止せざるを得ない場合もあり、歯科介入をするべき時期に十分に介入ができていないことも推察される。

現在、口腔有害事象の早期発見を目的に、歯科医療従事者も含めた他職種で構成された口腔ケアチームで、病棟内での口腔ケア回診を行っている。その結果、以前より早い段階で歯科介入できるシステムの構築が可能となった。さらに、がん治療終了後の患者で、継続した歯科介入が必要となる場合には、地域歯科医師会と連携して、できるだけ切れ目のない口腔機能管理を提供することができている。本講演では、院内院外における当センターの口腔機能管理の取り組みを紹介し、がん治療における歯科介入の効果、今後の課題とその対応について意見交換したい。

【学歴】

1999年 大阪大学歯学部卒業

【職歴】

1999年 兵庫医科大学歯科口腔外科 臨床研修医

2003年 星ヶ丘厚生年金病院 歯科口腔外科 医員

2006年 大阪大学歯学部附属病院 第一口腔外科 医員

2010年 NTT西日本大阪病院 歯科口腔外科 医員

2014年 吹田徳洲会病院歯科口腔外科 部長

2016年 大阪大学大学院歯学研究科 助教（口腔外科学第一）

2017年 大阪大学大学院歯学研究科 講師（口腔外科学第一）

2017年4月 - 現職

【専門分野・専門資格】

歯学博士、日本口腔科学会認定医・指導医、日本口腔外科学会認定専門医・指導医、

日本癌治療学会認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）

【所属学会】

日本口腔科学会、日本口腔外科学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本頭頸部癌学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔ケア学会、日本有病者歯科学会など

「歯科麻酔科による周術期口腔ケア ―当院における取り組み―」

洛和会音羽病院 歯科麻酔科 中尾 晶子 先生

当院では、2009年より歯科麻酔科が中心となり周術期口腔ケアを開始、2020年には周術期口腔ケアセンターを開設した。当初は医科系診療科の理解を得る必要があるなど困難にも直面したが、センター開設を経て病院全体に理解が広がり、現在では多くの医科手術患者の口腔ケアを担当している。術前麻酔科診察と同日に歯科麻酔科診察を実施し、入院前から計画の立案や介入を開始し、入院中はクリニカルパスに沿って術後退院に至るまでの一貫した口腔ケアを実施している。

歯科麻酔科医が周術期口腔ケアに携わるメリットには、次の3点があると考えます。(1)日頃から手術室で業務を行っていることから、麻酔科や外科系診療科との連携が取りやすい。(2)重症の基礎疾患を有する急性期の患者においても、全身管理を行いつつ抜歯等も含む口腔ケアを実施することが可能である。(3)麻酔科医の視点からの対応により、挿管操作時の歯牙損傷を予防することが可能である。

当院では日本歯科麻酔学会認定衛生士も、歯科麻酔科医とともに周術期口腔ケアを担当している。認定衛生士にとって、口腔ケアを通して得られる症例の理解や経験が、麻酔管理介助業務のレベルアップにも大きく役立っている。さらに口腔ケアを行うことにより、院内の多職種連携の輪に加わる機会が増え、“求められる存在”として活躍の場が広がっている。

本講演では具体的な症例提示を交えて、歯科麻酔科による周術期口腔ケアの実際と意義、今後の展望についてお話ししたい。

【略歴】

2004年3月 岡山大学歯学部卒業

2004年4月 洛和会音羽病院京都口腔健康センター研修医

2006年4月 洛和会音羽病院麻酔科レジデント

2007年1月 大阪大学大学院歯学研究科統合機能口腔科学専攻 高次脳口腔機能学講座研究生

2008年6月 洛和会音羽病院麻酔科・歯科麻酔科医員

2013年10月 洛和会音羽病院歯科麻酔科医長

2014年9月 洛和会音羽病院歯科麻酔科副部長

【資格】

歯科医師、日本歯科麻酔学会専門医、日本有病者歯科医療学会認定医、

日本口腔ケア学会認定資格3級

【所属学会】

日本歯科麻酔学会代議員、日本口腔ケア学会評議員、日本有病者歯科医療学会会員、

日本障害者歯科学会会員

「市民病院と隣接する口腔保健センターとの医歯連携および周術期口腔機能管理」

明石市立あかしユニバーサル歯科診療所 加藤 裕彦 先生

社団法人明石市歯科医師会では心身障がい者歯科診療を 1987 年より水、木曜日 2 日間の午後行い、明石市の指定管理者として運営されてきた。しかし受診可能患者数に限界があり、歯科医師会と障がい者団体の強い後押しにより 2020 年 6 月、月～土曜日診療可能な「明石市立あかしユニバーサル歯科診療所」を明石市立市民病院敷地内に新設。6 月より診療を開始した。診療対象としては、障がい者、有病者、歯科治療恐怖症、異常絞扼反射、局麻奏効不全症などとしている。診療体制としては、歯科麻酔科医 1 名、障がい者歯科医 1 名を常勤とし、歯科医師会や大学からの協力医と衛生士 5 名、事務職員 4 名で構成されている。設備内容としては、全ての診療チェアに生体モニター、酸素、亜酸化窒素配管がされており、全身麻酔、静脈内鎮静法、吸入鎮静法、行動療法、モニター管理等用いて行っている。

当該施設の特徴は明石市立市民病院敷地内に立地していることによるところが大きい。市民病院との間隔は 1m 未満と、非常に近接している。病院に通院中の患者には受診日に合わせた歯科治療を行っている。入院中の患者に関しては訪問歯科診療も行っている。また、病院の NST（栄養サポートチーム）へ参画しており、早期離床、早期退院への取り組みに協力している。さらに市民病院での癌や整形外科手術および化学療法施行患者に対しては周術期口腔機能管理を行うことで術後の呼吸器合併症の予防に寄与している。

この様に、明石市立あかしユニバーサル歯科診療所は障がい者歯科診療所であると同時に病院歯科としての側面を併せ持つ事が大きな特徴となっており、その概要について報告する。

【略歴】

平成 3 年 大阪歯科大学卒業

平成 8 年 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了

平成 8 年 4 月 大阪歯科大学助教

平成 22 年 4 月 大阪歯科大学講師

令和 2 年 6 月 明石市立あかしユニバーサル歯科診療所

【資格】

日本歯科麻酔学会専門医・認定医、日本障害者歯科学会指導医・認定医、日本口腔顔面痛学会指導医、日本蘇生学会指導医

【所属学会】

日本歯科麻酔学会、日本障害者歯科学会、日本口腔顔面痛学会、日本蘇生学会

アクセスマップ

電車：阪急電車千里線「北千里（終点）」下車、東へ徒歩約 25 分

モノレール：大阪モノレール「阪大病院前」下車、徒歩約 5～15 分

バス：

阪急バス・千里中央発「阪大本部前行」、「茨木美穂ヶ丘行」・北千里発「阪大病院線」

※千里中央発、北千里経由もあります。

近鉄バス・阪急茨木市駅発「阪大本部前行」（JR 茨木駅経由）

いずれも、「阪大病院前」下車、徒歩約 5 分



【歯学部・歯学研究科】